The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	田尻雅士 履歴
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2008, 32, p. 5-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99319
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

田尻　雅士 先生（1960～2007年）

田尻　雅士（1960～2007年）履歴

＜学　歴＞

昭和54年３月１日　兵庫県立兵庫高等学校　卒業
昭和54年４月１日　大阪外国語大学外国語学部英語学科　入学
昭和58年３月28日　大阪外国語大学外国語学部英語学科　卒業
昭和58年４月１日　大阪外国語大学大学院外国語学研究科英語学専攻修士課程　入学
昭和60年３月28日　大阪外国語大学大学院外国語学研究科英語学専攻修士課程　修了
平成13年３月23日　大阪大学博士（言語文化学）

＜職　歴＞

昭和60年４月１日　運輸省海技大学校教養科助手に採用される
昭和62年４月１日　大阪外国語大学外国語学部助手に転任
昭和64年１月１日　大阪外国語大学外国語学部講師に昇任
平成４年９月１日　連合王国エセックス大学現代日本研究所客員研究員
（平成５年７月31日まで）
平成６年１月１日　大阪外国語大学外国語学部助教授に昇任
平成８年５月１日　連合王国ブリストル大学人文学部英文学科客員研究員
（平成９年４月30日まで）

＜研究業績＞

（著書・単著）

Studies in the Middle English Didactic Tail-rhyme Romances　英宝社（東京都）xiii＋232P. 平成14年（2002年）４月10日

（著書・共著）

SENTENTIAE－水鳥喜喬教授還暦記念論文集　北斗書房（京都市）x＋313P. 平成７年（1995年５月20日）

（博士論文）

Studies in the Middle English Didactic Tail-rhyme Romances　大阪大学（吹田市）ii＋251P. 平成12年（2000年）８月

（学術論文・単著）

A Syntactical Study of Do, Shall and Will in the Authorized Version of the Bible『*NEBULAE*』（大阪外大言語学サークル）第９号　pp. 48－77. 昭和58年（1983年）11月５日

A Study of Exbraciation in Old English『*NEBULAE*』（大阪外大言語学サークル）第10号　pp. 161－173. 昭和59年（1984年）11月３日

「後期古英語の語順に関する一考察－語順推移の視点から」『*STUDIUM*』（大阪外国語大学大学院研究室）第13号. 昭和59年（1984年）11月30日

「中英語脚韻詩における *to* ――不定詞修飾語句の位置について」『外国語・外国文学研究』（大阪外国語大学大学院修士会）第９号　pp. 67－82. 昭和60年（1985年）12月１日

「中英語頭韻詩 *Sir Gawain and the Green Knight* における不定詞修飾語句の位置について」『海技大学校研究報告』第29号　pp. 89－105. 昭和61年（1986年）３月10日

'*The Heroine on the Beach*' *in* Emaré.『海技大学校研究報告』第30号　pp. 67－85. 昭和62年（1987年）３月10日

Annotations on Sir Cleges, *A Middle English Metrical Romance*『大阪外大英米研究』第16号　pp. 211－231.　昭和63年（1988年）２月29日

Variation of Word Order in the Manuscripts of the Canterbury Tales『大阪外国語大学論集』第２号　pp. 39－52. 平成２年（1990年）３月31日

Hengwrtism and Ellesmerism-Notes on Some Editions of the Canterbury Tales『*The Tabard*』（京都府立大学水鳥研究室）第３号　p. 22－37. 平成３年（1991年）７月１日

'*The sone rase bryght and schane*'*-the Theme of the Hero on the Beach in Middle English Tail-Rhyme Romances*『大阪外国語大学論集』第６号　pp. 195－218. 平成３年（1991年）12月15日

How pitiful the lady was!-Some Common Features of English and Japanese Traditional Narratives『英語圏世界の総合的研究』〔平成３・４年度大阪外国語大学特定研究報告書〕（箕面市）pp. 43－61. 平成５年（1993年）３月

'*So well y schall the saue!*'――*A Study of the ME Tail-Rhyme* '*Breton Lays*'『大阪外大英米研究』第20号　pp. 139－66. 平成７年（1995年）２月28日

The Hero as (Anti) christ in Sir Gowther: the Influence of the Apocryphal Gospels Reconsidered『大阪外国語大学論集』第19号　pp. 127－141. 平成10年（1998年）９月30日

「中英語ロマンス覚書－テイル・ライム・ロマンスを中心として」『大阪外大英米研究』第23号　pp. 197－225. 平成11年（1999年）３月31日

Romance, Wall Paintings and Vault Bosses: Le Bone Florence of Rome *in Context*『大阪外国語大学論集』第21号　pp. 93－113. 平成11年（1999年）９月30日

「中英語ロマンスにおける反ロラード主義？――*Le Bone Florence of Rome* とその写本をめぐって（その１）」『大阪外大英米研究』第28号　pp. 135－148. 平成16年（2004年）３月31日

「中英語ロマンスにおける反ロラード主義？――*Le Bone Florence of Rome* とその写本をめぐって（その２）」『大阪外大英米研究』第29号　pp. １－17. 平成17年（2005年）３月31日

Women in Middle English Romances and Traditional Japanese Folk Narratives. *LANGUAGE BEYOND-A Festschrift for Hiroshi Yonekura on the Occasion of His 65th Birthday* p. 447－458　平成19年（2007年）３月31日

Romances in MS Ashmole 61 : With Paticular Reference to Sir. Orfeo and Sir Clages.『テクストの言語と読み－池上惠子教授記念論文集』p. 224－235　平成19年（2007年）12月10日

（学術論文・分担執筆）

Middle English 'Breton Lays'-Two Tradition『*SENTENTIAE*－水鳥喜喬教授還暦記念論文集』北斗書房（京都市）pp. 267－277. 平成７年（1995年）５月20日

（研究ノート・単著）

Middle English Poetic Syntax: A Short Annotated Bibliography『大阪外大英米研究』第17号 pp. 125－144. 平成２年（1990年）３月31日

「英国国語教育論争管見」『大阪外大英米研究』第19号　pp. 215－230. 平成６年（1994年）３月31日

「ジェフリー・チョーサー：イギリス的ユーモアのはじまり」『イギリス研究の動向と課題』〔平成７・８年度大阪外国語大学特定研究報告書〕（箕面市）pp. ３－21. 平成９年（1997年）３月31日

「英語史研究の意義と方法をめぐって－小論」『大阪外大英米研究』第27号　pp. 53－65. 平成15年（2003年）３月31日

（共 訳 書）

『中世英国ロマンス集　第三集』篠崎書林（東京都）vi＋352P.（分担）pp. 131－154. 平成５年（1993年）５月15日

『中世ブルターニュ妖精譚』関西古フランス語研究会（貝塚市）295P.（分担）pp. 233－270. 平成10年（1998年）７月１日

『中世英国ロマンス集　第四集』篠崎書林（東京都）vi＋281P.（分担）pp. １－82; 271－279. 平成13年（2001）１月31日

（書評・単著）

『岡　三郎・著「比較物語学序説－中世文学研究Ｉ」』『英語青年』研究社出版（東京都）第144巻第１号　p. 57. 平成10年（1998年）４月１日

G.A. Lester, *The Language of Old and Middle English Poetry*. Macmillan, 1996, viii＋182pp. *Studies in Medieval English Language and Literature*（日本中世英語英文学会）第13号　pp. 61－74. 平成10年（1998年）７月25日

George Russell & George Kane, eds. Piers Plowman: *The C Version*, The Athlone Press / University of California Press, 1997, xii＋700p.『英文学研究』（日本英文学会）第76巻第２号　pp. 239－244. 平成11年（1999年）12月30日

Hiroyuki Matsumoto *(ed.) The Destruction of Troy: A Diplomatic and Color Facsimile Edition*, The University of Michigan Press, 2002, *1 CD-ROM Studies in English Literature*（日本英文学会）English Number 46　pp. 328－334. 平成17年（2005年）３月20日

『中尾佳行「Chaucer の曖昧性の構造」東京：松柏社, 2004. xiv＋451pp.』*Studies in Medieval English Language and Literature*（日本中世英語英文学会）第20号　pp. 143－149. 平成17年（2005年）７月31日

（紹介等・単著）

「海外新潮・中英語韻文ロマンスの再評価」『英語青年』研究社出版（東京都）第142巻第３号　p. 149. 平成８年（1996年）６月１日

「海外新潮・Historical Pragmatics」『英語青年』研究社出版（東京都）第142巻第６号 p. 321. 平成８年（1996年）９月１日

「海外新潮・ヨークシャーの中世学会」『英語青年』研究社出版（東京都）第142巻第９号　p. 494. 平成８年（1996年）12月１日

「海外新潮・マニュスクリプト・コンテクスト」『英語青年』研究社出版（東京都）第142巻第12号　p. 686. 平成９年（1997年）３月１日

「ブリストル大学の中世研究」『日本中世英語英文学会会報』第26号　pp. ５－６. 平成９年（1997年）10月31日

（研究発表・単独研究）

『英語の語順推移の要因に関する一考察』日本英文学会第37回九州支部大会（於　活水女子大学）昭和59年（1984年）11月23日

Possible Instances of an Oral-Formulaic Theme in a Middle English Metrical Romance ネビュリー会（Osaka Gaidai Linguistic Circle）第１回研究発表会（於　大阪外国語大学）昭和62年（1987年）12月12日

『*The Canterbury Tales* 諸写本に見られる語順の異同について』日本中世英語英文学会第５回西支部例会（於　神戸市外国語大学）平成１年（1989年）５月６日

『ME 尾韻ロマンス群における口承定型主題「浜辺に立つ英雄」について』日本中世英語英文学会第６回全国大会（於　大手前女子大学）平成２年（1990年）12月１日

『チョーサーの写本・刊本の言語について－「カンタベリー物語」を中心として』大阪言語研究会第107回例会（於　なにわ会館）平成４年（1992年）７月５日

『中世英国ロマンスの中での「ブレトン・レイ」の位置づけについて』日本英文学会第66回全国大会シンポジアム第８部門「中世英国ロマンス『ブレトン・レイ』の世界（於　熊本大学）平成６年（1994年）５月22日

Sir Orfeo *in MS. Ashmole 61: One Foot in the Tail-rhyme World?* 日本中世英語英文学会第13回西支部例会（於　帝塚山短期大学）平成９年（1997年）６月14日

Mother-Son Image in Sir Gowther*: The Influence of the Apocryphal Gospels Reconsidered* The 4th International Medieval Congress（於　The University of Leeds, U.K.）平成９年（1997年）７月16日

Romance, Wall Paintings and Vault Bosses: Le Bone Florence of Rome in Contcxt The 5th International Medieval Congress（於　The University of Leeds, U.K.）平成10年（1998年）７月16日

『ロマンス・壁画・教会彫刻－「ローマの善女フローレンス」をめぐって』日本中世英語英文学会第14回全国大会（於　山口県立大学）平成10年（1998年）12月６日

『中英語ロマンスにおける反ロラード主義？－「ローマの善女フローレンス」とその写本をめぐって』日本中世英語英文学会第19回全国大会（於　東京外国語大学）平成15年（2003年）12月14日

Women in Middle English Romances and Traditional Japanese Folk Narratives The 12th International Medieval Congress（於　The University of Leeds, U.K.）平成17年（2005年）７月12日

『ロマンス・写本・scribal editing MS Ashmole 61の場合』日本英文学会第78回全国大会シンポジアム第５部門「中世ロマンス　文学的研究と語学的研究の壁を超えて」（於　中京大学）平成18年（2006年）５月20日